

東京神学大学 事業報告書 (2017 年度)

I 法人の概要

1. 設置する大学と建学の精神

学校法人東京神学大学は、神学部神学科の学部、並びに組織神学専攻と聖書神学専攻を擁する大学院（博士課程前期、後期課程）を設置しています。これに併せて総合研究所（日本伝道研究所並びにアジア伝道研究所）を付設しています。2017年度の入学定員は学部7名、別途3年編入学定員23名で、学部総定員は85名、大学院博士課程前期課程入学定員は各専攻15名、博士課程後期課程入学定員は各専攻2名です。2017年度の学生数は学部56名、大学院54名、計110名（2017年5月1日現在）。

本学は、福音主義のキリスト教神学を研究し、福音の宣教に従事する教役者（牧師、キリスト教学校の聖書科教員などの伝道者）を養成すること、特に日本基督教団の教職者の養成と神学的指導の使命を担うことを「建学の精神」としています。これによって教育と事業を貫く「基本理念」を以下のように表明しています。「キリスト教の信仰に基づいた有為な指導者を教育し、教会・キリスト教学校・病院・諸施設等に送り、人類的な新たな地球共同体——それはまさにイエス・キリストが示した神を愛し、己のごとく隣人を愛する人格的存在がお互いに自由と謙遜を持って築き上げる共同体である——の担い手を涵養育成すること、またそのために専門的な神学の理念と応用を修得させることである」（本学ホームページの「東京神学大学の理念・目的〈建学の精神〉より）。

2. 東京神学大学の沿革

東京神学大学は、日本基督教団の成立に併行して、福音主義キリスト教各派の神学機関を統合しながら成立し、この成立史とそこから生じる使命のゆえに「教団立神学校」として、今日に至っております。成立の経緯の概要は以下の通りです。

- 1856（安政 6）年 プロテスタント諸教会の宣教師たちが日本で宣教を始める。
- 1872（明治 5）年 横浜に最初の教会「日本基督公会」が設立される。
- 1873（明治 6）年 宣教師のS・ブラウンが横浜に最初の神学塾「ブラウン塾」を開校。
- 1877（明治 10）年 「東京一致神学校」（後の明治学院）開校。
- 1904（明治 37）年 植村正久牧師により「東京神学社」設立。
- 1930（昭和 5）年 本学の前身「日本神学校」が設立され、「明治学院神学部」が合流。
- 1941（昭和 16）年 プロテスタント諸教派の合同教団として日本基督教団設立。
- 1943（昭和 18）年 教派ごとに分かれていた15の神学校が「日本東部神学校」・「日本西部神学校」・「日本女子神学校」の3校に統合される。
- 1944（昭和 19）年 「日本東部神学校」・「日本西部神学校」が、さらに「日本基督教神学専門学校」として合流。
- 1945（昭和 20）年 「日本女子神学校」の後身「日本基督教女子神学専門学校」も「日本基督教神学専門学校」に合流。
- 1949（昭和 24）年 新制度による大学として「東京神学大学」となる。
- 1951（昭和 26）年 私立学校法の公布に伴い「学校法人東京神学大学」に組織変更。千代田区富士見町から三鷹市牟礼に移転。
- 1966（昭和 41）年 三鷹市牟礼から現在地（三鷹市大沢）に移転。

- 1968 (昭和 43) 年 本館東部部分を増築。
 1986 (昭和 61) 年 本館から独立させて図書館棟を建設。
 2011 (平成 23) 年 韓国イエス教長老会神学大学校と相互協力協定を結ぶ。

3. 役員・教職員の概要 (2018年3月31日現在)

(1) 理事 (18名)

理事長	伊藤 瑞男	理事	小林 眞
学長理事	大住 雄一	〃	佐々木美知夫
財務理事	長山 信夫	〃	嶋田 順好
常務理事	岩澤 嵩	〃	楠本 史郎
〃	藤掛 順一	〃	W.ジャンセン
〃	山本 和	〃	東野 尚志
〃	棟居 洋	〃	松井 睦
〃	黒沼 健	〃	清藤 城宏
理事	木下 宣世	〃	河田 直子

(2) 監事 (2名)

監事	小山田小八郎
〃	齋藤 孝

(3) 評議員 (37名)

評議員	岡村 恒	評議員	藤掛 順一
〃	山畑 謙	〃	山縣 史子
〃	服部 修	〃	黒沼 健
〃	武田 真治	〃	神代 真砂実
〃	小林 眞	〃	朴 憲郁
〃	杉森 耀子	〃	大住 雄一
〃	半田 浩介	〃	井ノ川 勝
〃	望月 修	〃	佐々木美知夫
〃	岩澤 嵩	〃	小堀 康彦
〃	山本 和	〃	古屋 治雄
〃	穴戸 基男	〃	黒米 理恵
〃	市川 一宏	〃	渡邊 義彦
〃	松井 睦	〃	河田 直子
〃	W.ジャンセン	〃	D.リーディー
〃	木下 宣世	〃	嶋田 順好
〃	東野 尚志	〃	棟居 洋
〃	清藤 城宏	〃	片桐 牧雄
〃	長山 信夫	〃	戸塚 智之
〃	楠本 史郎		

(4) 教育職員 (14名)

学 長	大住 雄一	教 授	W. ジャンセン
教 授	芳賀 力	〃	焼山 満里子
〃	関川 泰寛	〃	小泉 健
〃	朴 憲郁	准教授	須田 拓
〃	神代 真砂実	〃	長山 道
〃	小友 聡	特任教授	棚村 重行
〃	中野 実	助 教	田中 光

(5) 事務職員 (14名)

事務長	片桐 牧雄		
総務課	戸塚 智之	木村 訓子	
経理課	光永 豊	福本 浩子	
財務課	松本 秀則		
教務課・学生課	小林 由希子	萩原 なおみ	山田 雅子
	原田 恵美		
図書館	木下 真由美	岸本 苑子	今中 匡彦
印刷室	保坂 久実		

II 事業の概要

本学では、2012(平成 24)年度を本学の教育・事業進展と新たな「大学改革の年」と位置づけ、そのための諸課題の自覚と改革に取り組むことを各年度目標としてきた。その結果、大学基準協会から 2013(平成 25)年度から七年間の「大学認証評価」を受け、文部科学省の「法人運営調査」も終了した。

そうした近年の大学改革の試みの延長戦上にある 2017(平成 29)年度全体の本学の教育・事業の進捗状況や主たる改革努力について事業の概要を、ここで報告することとしたい。

1. 教育理念・目的および教育内容・方法・成果にかかわること

本学では、かつて博士課程後期課程修了者（つまり神学博士号取得者）は、論文博士として論文審査を経て学位を取得する者が多数であった。しかし課程博士の博士号取得者を増やす必要を自覚し、以下の諸改革を積み重ねてきた。①2010(平成 22)年度より、年に一回、6 月頃に博士課程後期課程在学者による研究発表会を開催し、各専攻分野から適格者 2 名を選び、教授、在学生も参加する研究発表会を開き、そこでの質疑応答をもとに発表者には本学の二種類の学術論文雑誌へ寄稿を認めている。②また外国語学力認定試験の受験時期や受験回数についても、柔軟な対応が可能となる規則改正をも併せて行ってきた。

特に重大な改革としては、③2012 年度より規則化され、以後運用化された長期履修制度の導入がある。つまり、本学の修士課程修了後、牧師として任地へ赴き牧会をしながら、あるいは他大学でキリスト教関係科目の教育を担当しながら、同時に週一日本学の博士課程後期課程へ在学しつつ、論文提出資格を取得させる制度改革である。これにより、以前よりもスケジュール的にも精神的にも余裕をもって後期課程での学びを開始ないし続けることができる学生たちの数が増加しつつある。

2. 教育研究組織および教員・教育組織にかかわること

a. 授業担当者能力養成 (FD)

本年度も、前期・後期にわたり科目を選択して交代させながら、学部と大学院双方で、授業効果調査アンケートを行い、それらの調査結果を授業担当者全員に開示した。2016(平成 28)年 3 月の特別教授会では、1 年間の FD 活動の反省を行った。

b. 大学院博士課程後期課程在学者の研究発表会

2017 年 6 月 20 日の一般講演時間に、第 8 回大学院博士課程後期課程研究発表会を開催し、在学中の飯田仰氏(歴史神学)と矢田洋子氏(旧約神学)の二氏が、それぞれ研究発表を行った。出席者は 64 名で、二人の成果は後に本学の神学雑誌に掲載される予定である。伝道心ある神学研究的牧師の研究発表の機会でもあり、全学行事としても定着しつつある。

c. 全学生のための神学フォーラムの開催

本学教授たちの発題による「神学フォーラム」が、全学生を対象にして開催された。テーマは「聖書のみ」であった。第一回は、2017 年 10 月 10 日の一般講演時間に、第二回は、同年 10 月 17 日に、それぞれ 2 名ずつ発題者があった。いずれも、教授陣と学生たちとの神学的のみならず実践的な議論と交流の機会となった。

d. 2014 年度に助教 1 名(旧約聖書学専攻)を新規採用し、2016 年度には 2015 年度に定年退職された教育教員を特任教授として新規採用したため、教育職員の定数 14 名を維持することができた。

3. 学生の受け入れにかかわること

a. 新入学生の動向

2017（平成 29）年度には、神学部・神学科 1 年次には 3 名、同部 3 年次には 21 名、合計 24 名の神学部への新入学生を加え、スタートを切った。2016 年度の新入学生が 25 名であったので、それよりも 1 名の減少であった。毎年本学は気を緩めることなく、学生募集の努力を求められている。

b. 高校生会、青年の集い、オープン・キャンパス行事

①本年度も、11 月 11 日に本学の学生会主催の「高校生会」がもたれ、中高生 4 名を含め 19 名の会合が持たれた。将来の志願者獲得のためにも、学生会主催のこの会が継続できるように本学挙げて支援する所存である。

②本学主催の「第 19 回日本伝道を担う青年の集い」は、2017 年 9 月 23 日に本学で開催され、54 教会から 116 名が参加した。昨年度より 30 名ほどの減少であったが、内容は充実度の高いものであった。

③「オープンキャンパス」も、2017 年 12 月 2 日に実施され、学外からは 31 名、受験相談は 11 名が参加した。昨年度同時期の行事に比べると、学外参加や受験相談者の数が減少しているが、こうした地道な努力が中長期的に本学の志願者増大へと結びつくよう期待している。

4. 学生支援にかかわること

a. 障がい者への配慮

2011（平成 23）年度以来視覚障がいをもつ学生 1 名を受け入れ、落ち着いた学内での生活を続けている。学年が進むにしたがい、専門履修科目や聖書語学の履修の必要が加わるために、①一層時間をかけた教科書の朗読録音準備期間が必要となり、②また聖書語学の学びには担当講師の個別指導が必要となってきた。とくに②については、2013 年度同様に通年で聖書学の教師が土曜日に新約ギリシャ語の特別コースを設け学生に対して授業を行った。

障害者差別解消法の施行により、2017 年 9 月には主要施設の入口の自動ドア化、本館のエレベーターの設置、段差の回避等、キャンパス内の整備を行った。

b. 学内モラルの向上プログラム

2015（平成 27）年 4 月 21 日の本学の一般講演時間帯に開催された神学校全学集会では、芳賀力学長が紛争史以来の本学と教団の関係史を語り最近の教団と本学の伝道協力の再確認の意義を語った。また大住教授が最近導入された「研究倫理規程」を解説し、有意義な時をもった。

c. 夏期伝道実習および神学生出席教会の牧師との懇談会

本年度の夏期伝道実習は、2017 年 7 月 23 日～8 月 20 日まで、全国各地の諸教会で牧師の指導のもとに行われた。実習参加者は、学部 4 年生 20 名、大学院修士課程 1 年生 15 名、大学院修士課程 2 年生 1 名合計 36 人であった。秋には、実習先教会牧師の報告書と実習生の報告をもとにして、実習委員会の教授たちが参加学生と面談した。そこでさまざまな課題を共に話し合い、今後の大学と出席教会における学生の訓練の生活に役立てるように話し合いの時を持った。

また昨年度に引き続き 9 月 22 日には、後期始業式の後、神学生が週ごとに出席し訓練を受けている諸教会の牧師 29 名と教授会のメンバーとの懇談会も持たれた。教会と神学校が協力して神学生の成長に寄与するための会合である。

d. 留学生との懇談会

小規模大学のユニークな試みとして、例年秋に教授会全員と留学生全員との懇談会を持

っている。目的は、留学生の一人一人の実情を知り、あるいは共通課題を理解し合うためである。本年度は、2017年12月5日の一般時間からお昼にかけて一時間余り懇談の時を持った。在日の韓国人学生含む韓国および中国からの留学生から一人10分の発題を聞き、皆で留学生の課題について懇談の時を持った。今後も継続する予定である。

e. 卒業予定者の就職状況

今年度は、大学院修士課程前期2年生の修了者は20名で、ほぼ全員が学窓をいでて教会およびキリスト教主義学校へ派遣された。

5. 社会連帯・社会貢献にかかわること

a. 韓国のイエス教長老会神学大学との交換教授プログラム

2017年度は、イエス教長老会神学大学に小友聡教授を2017年4月21日から27日まで派遣し、講演、礼拝など多岐にわたる日韓両教育機関の交流に寄与した。

b. 学校伝道協議会の開催

2017年5月20日に本学を会場にして「第18回キリスト学校伝道協議会」が開催された。主題は「キリスト教学校の建学の精神～その担い手の養成と採用～」であった。並行して開催されている教員免許状更新講習参加者は減少した。学校伝道協議会の出席者は学外より46名、リピーターも増えたが、ここ数年出席者は減少する傾向にある。とくにキリスト教教育の神学的理念の探究面で独自の役割をもち、それを踏まえた教育の担い手の交流に寄与する会として成長が期待されてきている。

c. 日本伝道協議会全国大会および東京神学大学後援会公開講演会活動

①2017年6月5～6日にわたり日本伝道協議会全国大会が開催された。主題は、「我ら、ここに立つ～プロテスタンティズムの再生～」で、大住雄一学長が講演した。第一日目は、参加者は学外と学内併せて、137名であった。第二日目は、会場を銀座教会に移し、信徒の方々と学内関係者も合わせ全員で130名であった。

②本年度も、全国37か所で東京神学大学後援会・講演会に多くの教職・信徒の方々が参加した。教会数は延べ345教会、参加者総数は1,570人であった。

d. 教職セミナーの開催

2018(平成30)年1月9日～11日まで、例年どおり代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に開催された。主題は「福音による変革と形成—人間・教会・世界—」で、主題講演「福音による変革と形成」朴憲郁教授、特別講演「森は海の恋人 人の心に木を植える」畠山重篤先生(NPO 法人森は海の恋人理事長)が講演した。大変実践的で身近なテーマであったため、多数の参加を得て充実した学びの時であった。参加者は、教職・前期課程修了予定者・教職員をあわせ、120名であった。

e. 東京神学大学公開夜間神学講座

本講座は、毎週二回(月・金曜日:午後6:00～8:00)銀座教会で開催されてきた、72年の歴史を持つ一般信徒のための公開講座である。三学期にわたり、神学入門、旧約聖書、新約聖書、組織神学、教会史や世界宗教史、キリスト教美術や音楽、実践神学などの諸学を講師から学ぶ。講師はのべ10名で、6名が本学教員である。2017年度は、2年間で全20科目の修了を目指す第70期・71期生計25名、科目毎聴講生延べ146名であった。通常の講座の他、夏期研修会(1泊2日)では「現代に語る旧約聖書の知恵—箴言、ヨブ記、コヘレト、雅歌を学ぶ—」という主題で小友聡教授が講演し、50名の出席者があった。クリスマス会には夜間講座修了生の遠藤歡二牧師を迎え礼拝と祝会を持ち、55名が参加した。春季研修会は「『信仰のみ』に生きる信仰生活」と題して神代真砂実教授が講演を行い、65名が出席した。講座内容の充実および受講生拡大のために、さらに工夫が求められる時代だと思われる。

6. 内部質保証（自己点検評価）および「学校法人運営調査」にかかわること

a. 東京神学大学「内部質向上委員会」の設置

2013年7月に本学の「内部質向上委員会」とその組織図とが承認された。本学におけるFD活動と自己点検評価活動、それに学生会の授業アンケートにもとづく自主的懇談会を統括する委員会がここに誕生した。委員は、学長、書記、自己点検委員長、教務課主任、学生課主任の五名である。2015年11月17日に、本学と関係が深い宗教法人日本基督教団の教師委員会の委員長と委員計2名が、来校し『2014年度自己点検評価書』に基づき懇談の時をもち、また後日兩名の方から外部評価書を受け取った。

b. 文部科学省による「学校法人運営調査」の改善報告書提出

2012年11月22日には、文部科学省による「学校法人運営調査」が実施された。調査結果では、二項目の指導・助言事項があり、所定の締切り（2013年7月）までに改善状況を報告したが、一項目については2014年7月までに、その後の改善状況を報告することになっていた。この項目についても、2014年7月に改善状況報告書を提出した。

7. 施設や設備に関する主たる事業について

a. 本館図書館改修工事

障害者差別解消法の施行により2017年度は本館エレベーターの設置、入口の自動ドア化を実施した。また、図書館空調機の更新も行った。

b. ファイアウォールの更新

更新時期を迎えたファイアウォールのサーバーと保守契約を更新した。

c. 本館の空調機の更新

2017年度は学生会室、医務室、応接室の更新を行った。

d. キャンパス整備事業

2017年5月29日の定期理事会で正式に決議され、2017年度は活動開始した年といえる。今までの準備段階での検討を実現すべく以下の進捗を見た。

① 開発道路整備

建築法規の規制の下、キャンパス内違法建築物の解消対策、整備計画及び地盤管路調査を実施した。また、公道から職員住宅建設予定地までの間の開発道路の整備案として基本設計を作成した。

② 教職員住宅

設計事業者としてヴォーリズ建設事務所を選定し基本設計・実施設計を実施した。

③ 学生寮

教職員住宅と並行して施工業者選定のため学生寮についても基本設計を策定中である。

④ 研修センター

学内はもとより学外の人たちも利用できる施設として検討を開始した。2年ぐらいを目途に基本構想・基本計画を取りまとめる。

8. 主たる行事

(1) 4月 3日 公開夜間神学講座開講式 銀座教会

(2) 4月 4日 入学式・前期始業式

式 辞：大住 雄一学長

始業講演：「雅歌は知恵文学か」 小友 聡教授

(3) 4月 4日～6日 新入・編入生オリエンテーション

(4) 4月 7日 前期授業開始

(5) 4月 7日 公開夜間神学講座 1学期開始

- (6) 4月25日 神学校全学集会
- (7) 4月28日 クラス別懇談会
- (8) 5月16日 全学懇談会
- (9) 5月20日 第18回キリスト教学校伝道協議会
 主題「キリスト教学校の建学の精神 ～その担い手の養成と採用」
 教員免許状更新講習
- (10) 5月23日 前期学生総会
- (11) 5月26日 運動会（雨天のため中止）
- (12) 5月29日 公開夜間神学講座 クラス会
- (13) 6月5日～6日 第27回日本伝道協議会（全国大会）
 主題「我ら、ここに立つ ～プロテスタンティズムの再生～」
 主題講演講師 大住 雄一 学長
 公開講演会説教 藤盛 勇紀 牧師（富士見町教会）
 講師 小泉 健 教授
- (14) 6月13日 全学祈祷会
- (15) 7月4日 夏期伝道実習オリエンテーション
- (16) 7月10日 公開夜間神学講座 1学期最終日
- (17) 7月11日 夏期伝道実習壮行祈祷会
 礼拝説教：福井博文牧師（東中通教会）
- (18) 7月22日 夏期休業開始
- (19) 7月23日～8月20日 夏期伝道実習期間
- (20) 8月21日～22日 公開夜間神学講座 夏期研修会「現代に語る旧約聖書の知恵一箴言、ヨブ記、コヘレト、雅歌を学ぶ」講師：小友 聡教授
 国民生活センター
- (21) 9月1日 前期授業再開
- (22) 9月4日 公開夜間神学講座 2学期開始
- (23) 9月8日 前期授業最終日、派遣神学生オリエンテーション
- (24) 9月16日 大学院修士論文提出締切
- (25) 9月22日 後期始業式、始業講演：神代真砂実教授
 「信仰の創始者また完成者であるイエス」
 午後 神学生出席教会牧師と教授会との懇談会
- (26) 9月23日 第19回日本伝道を担う青年の集い
 開会礼拝説教「十字架の言葉」朴 憲郁教授
 献身の勧め：橋本いずみ牧師（西宮一麦教会）
 山元克之牧師（青山学院高等部聖書科）
- (27) 9月25日 後期授業開始
- (28) 9月26日 夏期伝道実習報告会
- (29) 10月3日 宗教改革500年記念公開講演会「北森嘉蔵に見るルター神学の根本思想」
 発題：丸山久美子先生（聖学院大学名誉教授）
- (30) 10月10日 神学フォーラム「聖書のみ」1 発題：関川 泰寛教授、中野 実教授
- (31) 10月17日 神学フォーラム「聖書のみ」2 発題：芳賀 力教授、小泉 健教授
- (32) 10月10日～19日 11月入試願書受付期間
- (33) 10月24日 全学修養会 基調講演Ⅰ「福音の倫理的な力」 発題：小泉 健教授
- (34) 10月31日 全学修養会 基調講演Ⅱ（学生フォーラム）

- (35) 11月7日～8日 全学修養会「宗教改革に学ぶー倫理ー」八王子セミナーハウス
 主題講演Ⅰ（一日目） 発題：鈴木 浩先生（ルーテル学院大学名誉教授）
 主題講演Ⅱ（二日目） 発題：藤掛順一先生（横浜指路教会牧師）
- (36) 11月11日 高校生会（学生会主催）
- (37) 11月23日 11月入試実施日
- (38) 11月25日 11月入試合格発表
- (39) 12月2日 オープンキャンパス
- (40) 12月4日 日本伝道協議会実行委員会 銀座教会
 公開夜間神学講座 2学期終了
- (41) 12月6日 修士論文合格発表
- (42) 12月11日 公開夜間神学講座 クリスマス会
- (43) 12月15日 クリスマス礼拝「インマヌエルの主に遣わされ伝道！」
 説教 佐藤 泉（泉町教会牧師）
- (44) 12月16日 冬期休業開始
- (45) 1月9日～11日 第49回教職セミナー 国立オリンピック記念青少年総合センター
 主題「福音による変革と形成 ー人間・教会・世界ー」
 主題講演「福音による変革と形成」朴 憲郁教授
 特別講演「森は海の恋人 人の心に木を植える」畠山重篤先生（NPO法人森は海の恋人理事長）
- (46) 1月12日 後期授業再開
- (47) 1月15日 公開夜間神学講座 3学期開始
- (48) 1月23日 第2回全学祈祷会
- (49) 1月30日 後期学生総会
- (50) 2月8日 後期授業最終日
- (51) 2月9日 朴 憲郁教授 最終講義ならびに名誉学位・名誉称号授与式
 講演「私にとってのキリスト教教育学」
- (52) 2月13日～14日 2月入試実施日
- (53) 2月16日 2月入試合格発表
- (54) 2月26日 公開夜間神学講座 3学期終了
- (55) 2月28日 2017年度大学院前期課程修了者、学部卒業生発表
- (56) 3月5日 公開夜間神学講座 春季研修会 銀座教会
 主題「信仰のみ」に生きる信仰生活 講師 神代真砂実教授
- (57) 3月6日 3月入試実施日
- (58) 3月7日 3月入試合格発表
- (59) 3月8日 卒業礼拝「神のために力を合わせて働く者」
 説教 田中かおる 安行教会牧師
- (60) 3月9日 卒業・修了式
 告示 大住雄一学長
 励ましの辞 教団総会議長 石橋秀雄牧師、岩槻教会 小林真牧師
- (61) 3月12日 公開夜間神学講座 第70期生修了式
- (62) 3月27日 高校生会（学生会主催）